

近大マグロ 7割増産へ

近大マグロ 7割増産へ

豊田通商、新たに稚魚施設

クロマグロの「完全養殖」事業を手がける豊田通商と近畿大学は16日、稚魚の生産を大幅に増やすと発表した。卵を孵化させて稚魚に育てる施設を長崎県内につくり、2019年度には生産量を7割余り増や



クロマグロの幼魚にえさをやる作業員＝長崎県五島市、豊田通商提供

す。クロマグロはすしネタなどに使われる高級魚で、資源保護のための漁獲規制が強まっている。増産で「持続可能な養殖事業」を拡大する考えだ。

クロマグロはストレスに弱く養殖が難しいが、近大水産研究所が02年に、世界で初めて卵から成魚に育てる「完全養殖」に成功。豊田通商と提携し、稚魚を幼魚に育てる事業を10年に同県五島市で始めた。

稚魚をつくる作業は近大が和歌山県内などで自前でやってきたが、この部分も豊田通商が事業化することで合意した。具体的には、五島市の福江島に新施設を建設。今後6年間で15億円を投じ、19年度に年30万匹の稚魚をつくる計画だ。

生産能力は今の年40万匹から70万匹に上がる。計画通りに進めば、クロマグロの国内消費量（年約4万ト）の2割が「近大マグロ」になる計算という。

近大は技術員を派出させ、ノウハウを教える。新施設は今ある幼魚の育成施設に近く、稚魚が輸送中に死ぬのを大幅に減らせる効果も見込む。

増産を進める背景には、乱獲によるクロマグロの減少と漁獲規制の強化がある。規制が強化されれば、通常の養殖に使われる幼魚が入手しにくくなり、クロマグロの価格が上がる恐れがある。豊田通商と近大はこれに備え、完全養殖の「上流部分」をてこ入れする。

（大日向寛文）